

口永良部島の火山活動解説資料（平成 21 年 4 月）

福岡管区気象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方気象台

噴煙活動はやや活発で、火山性微動はやや多い状態で経過しました。

口永良部島では、今後も新岳火口から 1 km 程度の範囲に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

平成 21 年 3 月 18 日に火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 4 月の活動概況

・噴煙の状況（図 1、図 3）

遠望カメラ（新岳火口の北西約 3 km）の観測では、^{しんだけ}新岳火口から白色噴煙が時々観測されており、19 日の観測では火口縁上 400m に達するなど、噴煙活動はやや活発な状態が続いています。また、27 日に第十管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、新岳火口から白色の噴煙が断続的に上がっているのが確認されました。

・地震、微動の発生状況（図 1、図 2）

継続時間の短い火山性微動が前月より増加し、70 回（3 月：14 回）発生しました。また、火山性地震は少ない状態で経過し、震源は主に新岳火口直下のごく浅い領域に分布しました。

・地殻変動（図 2、図 4）

GPS 連続観測では、2008 年 9 月以降認められていた新岳火口浅部の膨張を示す変化が今年 2 月頃から鈍化しています。

※この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、独立行政法人産業技術総合研究所のデータも利用して作成しています。

地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しました（承認番号：平 20 業使、第 385 号）。

この火山活動解説資料は、気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）、福岡管区気象台ホームページ（<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 21 年 5 月分）は平成 21 年 6 月 9 日に発表予定です。

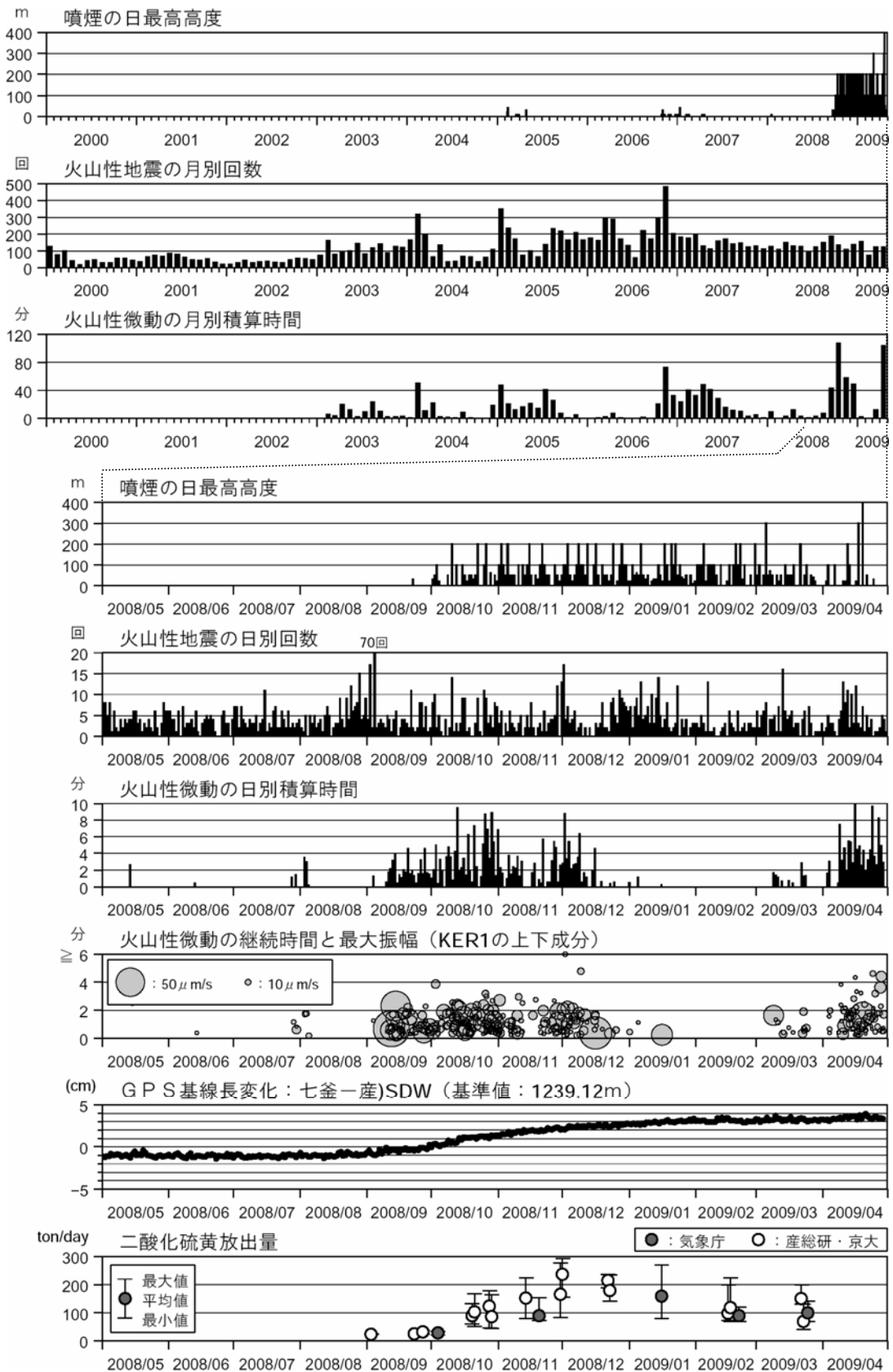


図1※ 口永良部島 最近の火山活動の推移 (2000年1月～2009年4月)

- ・火山性微動は前月より増加し70回(3月：14回)発生しました。火山性地震は少ない状態で経過しています。
- ・GPS連続観測では、2008年9月頃から認められていた新岳火口浅部の膨張を示す変化が今年2月頃から鈍化しています。

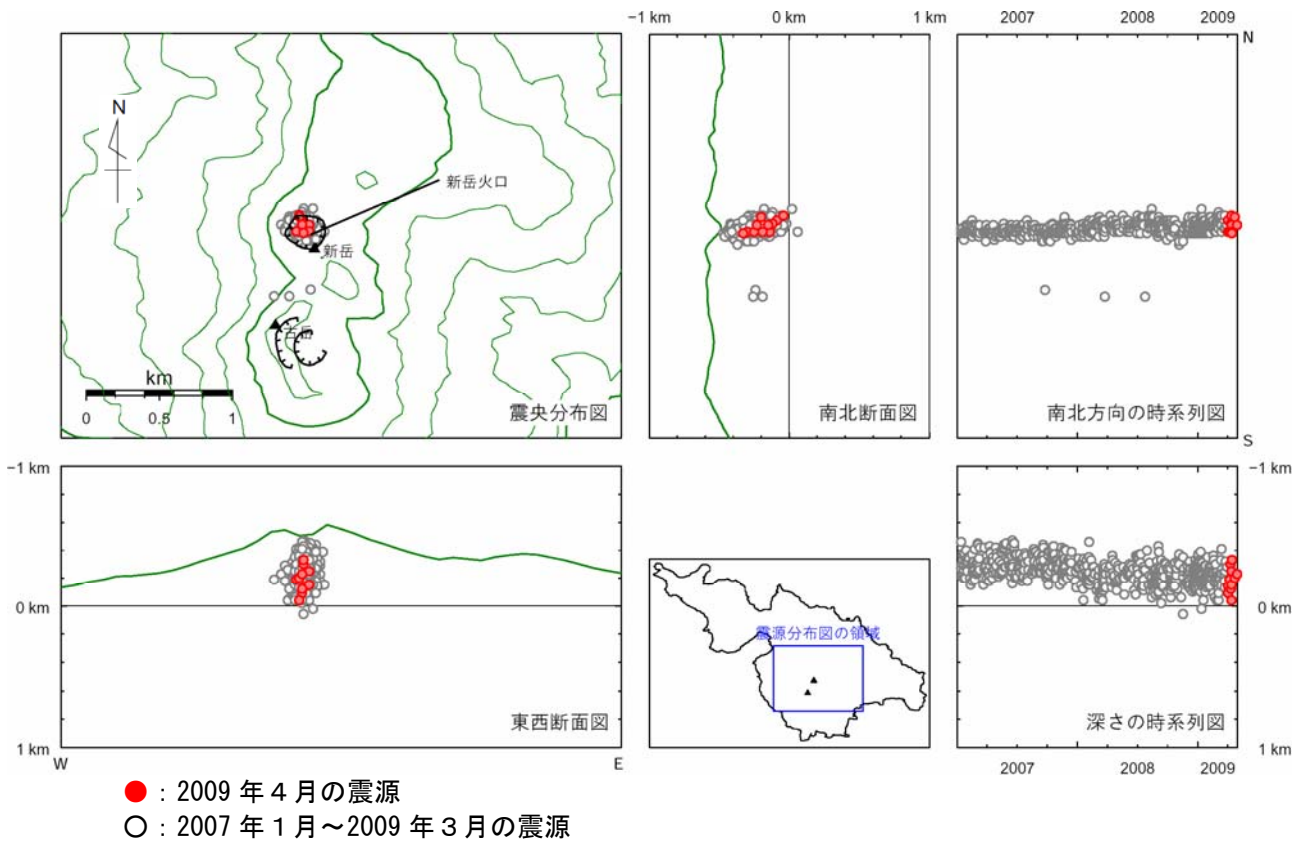


図 2※ 口永良部島 震源分布図 (2007 年 1 月～2009 年 4 月)

震源は、主に新岳火口直下のごく浅い領域に分布しています。

※2007 年 1 月 12 日から京都大学のデータを用いて震源を求めています。

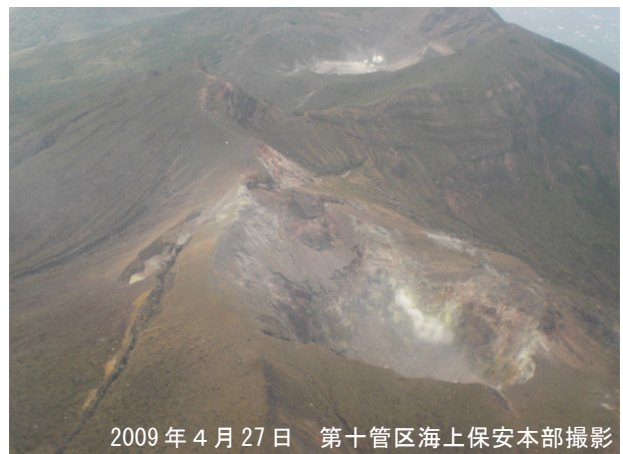


図 3 口永良部島 新岳火口及び火口周辺の状況 (新岳の北側から撮影)

27 日に第十管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、新岳火口から断続的に白色の噴煙が上がっているのが確認されました。

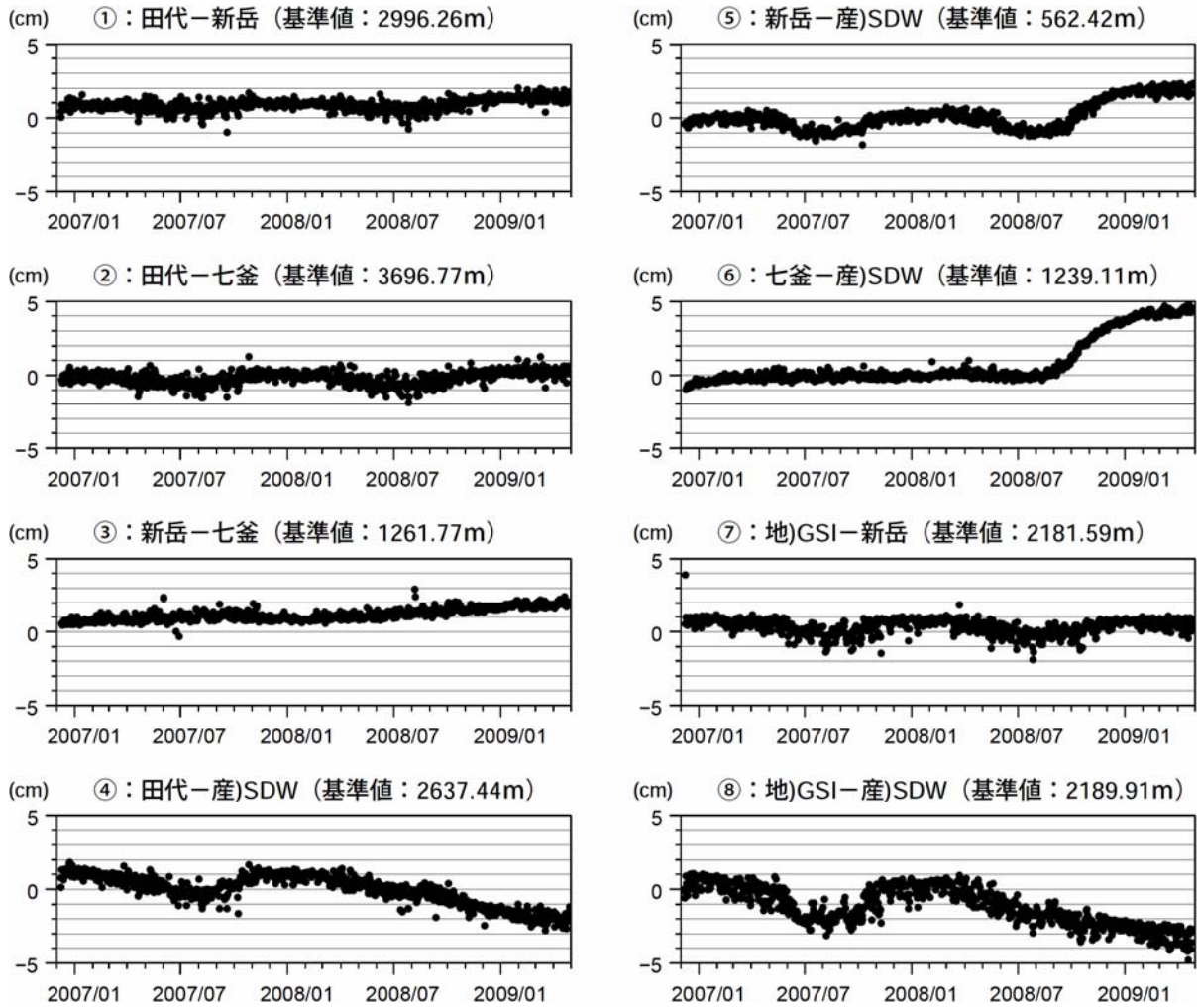


図 4※ 口永良部島 GPS 連続観測による基線長変化 (2006 年 12 月～2009 年 4 月)
 2008 年 9 月頃から新岳火口の膨張を示す変化が認められますが、2009 年 2 月以降、
 膨張を示す変化は鈍化しています。
 この基線は図 2 の①～⑧に対応しています。

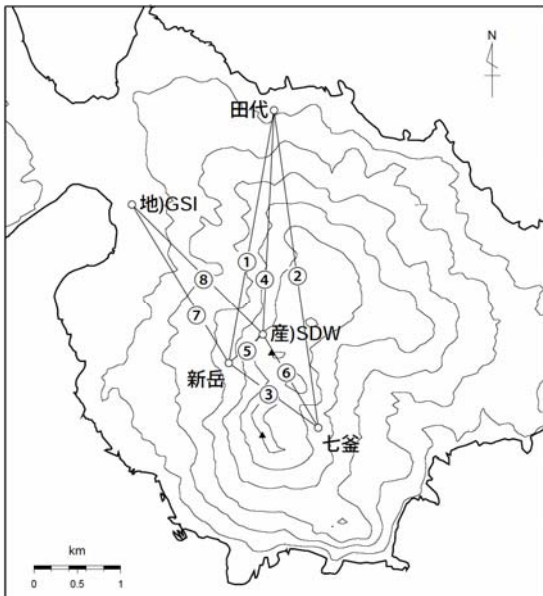


図 5 口永良部島 GPS 連続観測基線図

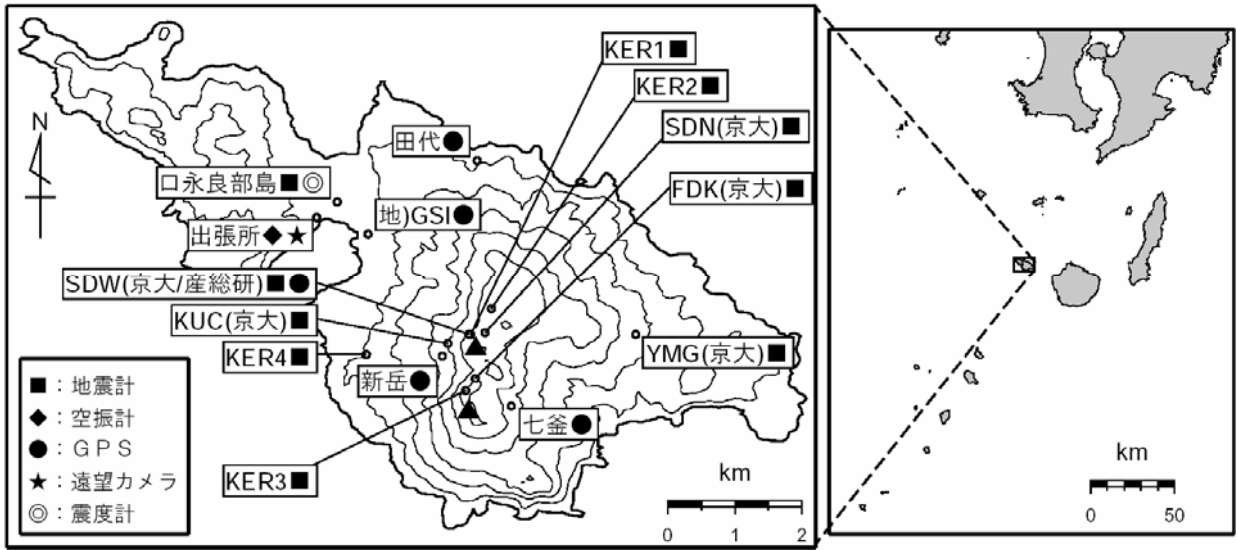


図6 口永良部島 観測点配置図